

<杵築市> 2019年度 学校評価の4点セット (自己評価・学校関係者評価)

学校名

杵築市立立石小学校

3学期

学校の教育目標

立石を愛し、心豊かにたくましくともに学ぶ児童の育成

◇課題解決に必要なとなる各教科・領域での基礎的・基本的な力を身につけることができる。【知識・理解】
 ◇課題解決に向け、既習事項を活用したり、自分や社会のかかわりを考えたり、相手にわかりやすく伝えることができる。【思考・判断・表現力】
 ◇課題解決に向け、協働して意欲的に取り組んだり、新たな課題に気付いたりすることができる。【学びに向かう力・人間性】

実態 (課題)	学力状況 (H30.12.18学力調査等)	学習状況 (昨年度の研究のまとめより)	体力の状況 (H30年度全国調査等)	いじめ・不登校の状況
	●6年生は国語、算数、理科で目標値を大きく上回っている。しかし、国語の話す聞く能力が目標値より5p低く苦手である。 ●5年生は国語、算数、理科で目標値を大きく上回っている。 ●4.3年生には学力的に支援を要する児童がそれぞれ在籍する。 ●1.2年生には学力的に支援を要する児童が在籍しない。	●ノート等に自分の考えを筋道立てて説明する書き方が十分身につけているとは言えない。 ●相手にわかりやすく説明する話型が身につけている子どもが少ない。	●全体的に体力は上がっている。 ●前年度は、体力調査で反復横跳び、シャトルランが平均値より低い学年が半数あった。 ●立ち幅跳びやボール投げは伸びは見られるが、個人差がある。	●前年度末でいじめ事案の解消ができていない案件は0である。 ●不登校傾向の子が5年生に1名いる。 昨年度の欠席日数は65日であった。

※ 授業改善計画に係るスケジュールおよび協議の場については、別途、校内研資料に示す。

重点目標 教育目標に向けて	担当	達成指標 目指す姿	重点的取組 (達成指標に向けて)		取組指標 誰が・何を・どのくらいの頻度で	取組状況の確認 (取組指標に対して)		達成状況の確認 (達成指標に対して)		考察・改善策 (取組状況・達成状況結果から)
			授業改善テーマ 育てたい力・目指す授業	取組内容 具体的・日常的な取組		評価	根拠	評価	根拠	
学力・学習状況	研究担当	以上の児童が、 単元末評価で、 80%以上の 学力向上の 割合を達成する。	筋道を立てて考え、表現する力を育てる算数科授業～説明する活動を通して～	既習事項をもとに算数用語や式・図などを用いて根拠となる考え方を示して説明する活動を設定する。	単元に1回以上、根拠となる考え方を示して説明する活動を設定した授業を行う。	A	全学級で、単元に1回以上、根拠となる考え方を示して説明する活動を設定した授業を行うことができた。	A	単元末評価テストの正答率80点以上の児童が「知識・理解」85.7% 「技能」100% 「数学的な考え方」92.9%	・説明の基本型をもとにしながら、根拠となる考え方を示して説明しようとする児童が増え、説明する力が徐々に高まってきている。 ・自分の考えを説明するだけでなく、友達の考えとの相違に着目して比較検討しながら、自分たちで課題解決していく力をつけることが大切である。
体力	体育担当	児童が、 9割以上、 毎日体を 動かすこと を達成する。	立石っ子ぐんぐんタイム	一校一実践 体力調査の弱い面を中心に走・投・跳のバランスの取れた運動能力を養う。	毎週木曜日の中休みに、1学期「走力：リレー、反復横跳び」2学期「投力：ドッジボール、ティーボール」3学期「跳力：なわとび」を計画的に行う。	S	毎週火、木曜日の中休みに、「跳」を重点に「ぐんぐんタイム」を行うことができた。また、この他にも、自分の目標を決めて毎日走るなど、体を動かす活動を行うことができた。	S	「学校で毎日体を動かしている」と答えた児童は95.2%	・「跳」を重点に「ぐんぐんタイム」を行うことにより、縄跳びの技の向上や持久力の高まりが見られた。毎日走ることも習慣となり、日常的に体を動かすことにつながっている。
徳育・いじめ・不登校	生徒指導担当	児童が、 学校生活に 満足し、 友達と 楽しく 活動する 割合が9割 以上となる。	徳育	読書を通して豊かな情操を養う。	毎週月曜日の朝、全校児童に本の借り換えを促す。	B	貸し出し冊数が10冊以上の児童は57.1%(月曜日貸出5回)	S	「学校に来て友だちと活動するのが楽しい」と答えた児童は95.2%	・なかよし班活動や学校行事などを通して、お互いを認め合い助け合うことができている。学校に来ることの楽しさにつながっている。 ・スマイルポストの設置により、友だちのよいところやうれしかったことなどを伝えることができ、お互いを大切に思い合える人間関係づくりができた。 ・今後も全職員で児童の小さな変化を共有していくようにする。
未然防止	なかよし班活動を通じた互いを大切に作る人間関係づくりを行う。	毎週金曜日になかよし班で校内外の清掃活動を行う。	A	なかよし班で助け合い協力しながら清掃活動を行うことができた。						
早期発見	児童の小さな変化について早期の情報共有を図る。	毎週月曜日の職朝や課後の時間に小さな変化に気づいた職員から情報提供を行う。	A	全職員で全児童を見つめ、早期の情報共有を図ることができた。						
解決支援	校内ケース会議を開催し、解決に向けての具体的な方策を協議し、決定する。	学期に1回支援を要する児童のケース会議を開催し、振り返りと今後の取組を関係者で確認する。	A	関係機関と連携し、ケース会議で具体的な方策について協議できた。						
担当			重点的取組			考察・改善策				
家庭		各家庭が毎日、早寝・早起き・朝ご飯の声かけと、宿題チェックを行う。				宿題チェックはほとんどの家庭できているが、「早寝・早起き・朝ご飯」ができている家庭は7割程度であり、休日や休日前日が乱れがちである。来年度もPTA専門部活動の取組として、チェックシートを工夫するなど、一人ひとりの意識を高めていくことが大切である。				
地域		立石地区公民館が学校からの求めに応じて「立石学」に係る地域人材・教材の情報提供を行う。				立石地区公民館による地域人材・教材の情報提供はできている。3学期は、公民館長の協力を得て、ため池見学を計画することができた。来年度も、さらに充実した「立石学」ができるように、公民館と学校との連携を密にしていける必要がある。				

※ 評価・・・S:100%超 A:80~100% B:80%未満